

平成30年度第2回府中市障害者計画推進協議会会議録

■日 時：平成30年11月14日（水）午前10時から正午まで

■場 所：府中市役所北庁舎3階 第5会議室

■出席者：(敬称略)

<委員>

曾根直樹、真鍋美一、藤原里美、岩村聡子、高橋美佳、村上邦仁子
小澤輝江、栗山恵久子、古寺久仁子、林比典子、村山孝、河井文
桑田利重、荻野和仁、渡邊信子、岡本直樹

<事務局>

障害者福祉課長、障害者福祉課長補佐、地域福祉推進課長
地域福祉推進課長補佐、障害者福祉課係長
障害者福祉課主査（2名）、障害者福祉課事務職員（2名）

■傍聴者：あり（2名）

■議 事：

1. 前回の会議録について 【資料1】
2. 進行管理の進め方について 【資料2】
3. 障害者計画の進行管理について 【資料3】
4. 府中市障害福祉計画（第4期）の進行管理について 【資料4】
5. その他

■資 料：

【事前配付資料】

- 資料1 前回会議録（案）
資料2 進行管理の進め方
資料3 障害者計画（平成27年度～32年度）進行管理一覧表
資料4 障害福祉計画（第4期）進行管理一覧表

【当日配付資料】

- 資料5 府中市障害者計画推進協議会スケジュール案（平成30年度～32年度）
席次表

議事

■事務局

改めまして、おはようございます。本日はお忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。委員18名中16名にご出席いただいております。本協議会の定足数を満たしておりますので、ただ今より、平成30年度第2回府中市障害者計画推進協議会を開会いたします。まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

(資料の確認)

続いて、本日ご欠席される委員についてご連絡いたします。本日は今野委員、鈴木委員よりご欠席とのご連絡をいただいております。

本日の会議の進行につきましては、次第に記載の通り、「障害者計画及び障害福祉計画（第4期）の進行管理」を主な議事としております。どうぞよろしくお願いいたします。本日は傍聴希望の方がいらっしゃいます。承認後に入室いただきます。会長、よろしくお願いいたします。

(委員より承認・傍聴人入室)

■会長

皆さん、おはようございます。平成30年度第2回の府中市障害者計画推進協議会を始めさせていただきます。

議題がたくさんある関係で早速議事に入らせていただきたいと思います。

1. 前回の会議録について

■会長

議事の1番、「前回の会議録について」、事務局からご説明をお願いいたします。

■事務局

資料1「第1回会議の会議録（案）」をご覧ください。内容は記載の通りです。事前にメールや電話で訂正依頼いただいている委員の分の訂正は完了しております。その他のご意見をいただきまして、その後ご承認いただきましたら、所定の手続きの上、会議録の公開を予定しておりますので、よろしくお願い致します。以上になります。

■会長

事前に皆様には目を通していただいて、修正点を修正いただいたものがお配りされているようですが、これで承認をしていただけますかということになるのでしょうか。

■事務局

お配りしているものに関しては訂正前のものを事前に送付させていただきましたが、事務局の持っているデータとしてはメールで訂正の依頼があったものや電話で直してくださいといわれたところに関しては直してあるという意味でございます。それ以外に訂正があるかを確認していただいて、この文章で問題がなければ発言者がわからないように事務局の方で委員の名前を伏せさせていただいて、配布した資料とあわせてホームページ及び図書館、情報公開室で公開出来るように事務局で準備してまいります。お願いいたします。

■会長

わかりました。こちらは訂正前のもので、事務局のデータでは皆様からご指摘いただいたところは修正が終わっているということで、その上で更にご意見がありましたら伺いいたします。

(発言者なし)

■会長

よろしいですか。特にご意見がないということであればこちらを最終的な議事録として承認いただいて、情報公開の手続きを進めるということではよろしいですか。

■委員

訂正箇所を覚えていただかないとわかりません。口頭で構いませんので、ここを訂正しましたというのがないと、ここで承認するという事は出来ません。

■事務局

そのようなことはございますけれど、まず皆様の発言に対して間違いがないかどうかということの確認をお願いします。

■会長

議事録なので、発言された方がご自分の発言内容の記録に責任を持っていただくということになると思いますので、もし皆様の方でこういうふうな訂正の依頼をしたものが直っているかということを経務局に確かめたい方がいらっしゃればお聞きいただくということによろしいですか。

■委員

よろしいでしょうか。訂正があったという説明だったので不安に思っていると思うのですが、事務局の方に連絡があったのはご自身の発言に関して表現を一部変えてくださいとか、字が違いますとかという連絡だったかということを経務局で確認すれば、自分で訂正を依頼したので、他の委員の発言には影響がないと思います。そのところを経務局の方に確認したいと思います。

■事務局

事務局より説明させていただきます。事前に訂正の依頼のあった委員に関しましては、訂正を希望された委員ご自身の発言のところになります。基本的にこの会議録はご自身の発言のところをご確認ください。先ほど委員がおっしゃったように訂正というのはご自身の発言に対する訂正ということになりますので、こちらの会議録でご自身の発言に問題がなければそのまま大丈夫なのですが、訂正がある方でまだご依頼をいただけていない方はこの場で発言をお願いいたします。

■委員

こんなにメール等ですぐ出来る状況にあって、修正箇所は少ないはずなので、その方にこういうふうに訂正しましたというのを今日までに送ればよいと思うのですよ。なぜかと言うと私は別の審議委員会で訂正したら、なぜか他の人の意見がそこに入っていたことがありました。後で見るとそういうところは確認出来ないわけです。事務手続き上そういうこともありますので、皆さん自分の意見は責任を持っておっしゃっていると思うので、ここの部分をこういうふうに訂正しましたというところを事前にメールでお互い確認し合うということによってどうでしょうか。これからということによって結構なのですが。

■事務局

そうですね。確認出来る部分や発言に対して間違いがないかどうかという確認の作業がありますけれども、一度検討させていただいて時間が許されるのであれば訂正したものをまた皆さんに確認していただければと思います。

■委員

少しの訂正のために全てを刷り直すのは大変なので、ご本人が納得すればいいことで、メールですぐに出来ることですので、ご検討よろしく申し上げます。

■事務局

はい。委員のおっしゃる通りで違った訂正もあるにはあるので、その辺は進めたいと思います。

■委員

よろしく申し上げます。

■会長

私は委員がおっしゃったこともごもっともだと思ひまして、訂正の要望したことが直っているかどうかの確認を本人が出来ていないで、そのまま議事録になってしまうというのもしっかりおかしな話だと思います。今日のところは訂正の要望を出した方については後ほど事務局からこういうふうに訂正しましたということをご提示いただいて、それで問題がなければ第1回の議事録はそれで確認されたという手続きでよろしいでしょうか。

■事務局

はい。そのようにさせていただきます。そして可能な限りこちらの発言を汲まさせていただきますと、事前にメールや電話で訂正をいただいたのは大変ありがたいのですが、そのことによってこの協議の場でそれがわからないというのはこちら準備不足で申し訳ないのですが、出来ましたらこちらの会議で訂正のところを発言していただいた方がいいのではないかと思います。事前にメールとかではなくて、会議の時に議事録の確認の場を設けますので、そこで訂正依頼がありますということで発言していただいたら皆さんで情報をその場で共有出来るということになりますので、

■委員

先ほどいったことと少し違うのは、私は大きく変えてあると思ったので、「てにをは」ですとかそういう文章の少しの間違いであればここで議論する必要はないと思うので、時間の無駄ですよね。その説明を最初からしていただければわかるのですが、ここでいわれると大事なところを変えているかと思ってしまいました。

■事務局

委員、すみませんでした。先ほどの発言を改めたいと思います。申し訳ございませんでした。

■会長

私もいろいろと審議会とか出ていますが、議事の中で議事録の訂正の意見を直接伝えるというのは経験したことがありません。事前に意見を出してもらって、訂正後のものを配布して確認してもらおうということが一般的な流れのように思います。そちらの方が時間も効率的に使えるので、それでよろしいでしょうか。次回から事前に訂正の意見を出してもらって、訂正後のものを当日に配布していただいて、そこで直っているかの確認をしていただくという段取りでいかがでしょうか。

■事務局

そうしましたら当日に訂正した部分を配布させていただくということですので、委員の皆様には申し訳ありませんが、議事録の訂正につきましては議事録の資料を事前に送付させていただき、訂正版を当日に配布したいと思います。ただし当日に配布するにも事務手続きを踏まえたいと思いますので、協議会開催の一週間前までに「てにをは」などの軽微な訂正については事務局の方にご連絡をいただきまして、当日はどこがどのように直っているかというものをお配りするということよろしいでしょうか。

■会長

事務局の方は大丈夫ですか。それで仕事が大変になってしまうとすれば別のやり方もあると思うのですが、

■事務局

委員からのご意見でそちらの方がわかりやすいということですので、そのように務めさせていただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

■会長

そういうことよろしいでしょうか。本日の議事録の訂正の確認は、事務局と個々にお願いいたします。

2. 進行管理の進め方

■会長

2番目の進行管理の進め方に移らせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

事務局から資料2の「進行管理の進め方」について説明をさせていただきますので、資料2をご覧ください。「1. 進行管理とは」、「(1) 障害者計画における進行管理について」を説明させていただきます。障害者計画で定めた111個の事業について、障害者計画推進協議会で点検及び評価をいたします。毎年、前年度の実行・評価・改善と、今年度の計画の確認をお願いしたいと思っております。評価の目安については、その下の図の通りになります。計画事業の内容の通り、実施出来たものについては○、計画事業の内容の一部を実施出来たものについては△、実施しなかったものについては×、実施の予定がなかったものについては―とさせていただきます。続きまして「(2) 障害福祉計画における進行管理について」を説明させていただきます。障害福祉計画の進行管理一覧表(資料4)に基づき、平成29年度の進捗状況について、計画量に対する達成状況を5段階(◎○□△×)で判定しています。計画の確保量によりまして、評価が異なってまいります。80%以上確保できたものについては◎、60%~79%のものについては○、40%~59%のものについては□、20%~39%のものについては△、19%以下のものについては×になっております。「2. 進行管理の流れ」、「(1)各委員の進行管理手順」を確認させていただきます。事前に送付させていただいた各計画の進行管理一覧表を確認していただきまして、判定に関する意見をまとめておきます。「(2) 会議での進行管理手順」会長の進行により、各委員の意見等を確認しながら、両計画の進行管理を行います。「(3) 協議する際の留意点」「進捗状況」の判定については、『事業内容』に即して平成29年度の事業が実施されたか」という観点で判定します。事業内容に記載してある制度そのものの是非の判断、計画の良し悪しの評価とならないよう気を付けて頂きたいと思っております。

■会長

ありがとうございました。これから2つの計画の進捗管理を行なっていくわけですが、1つは「障害者計画」でこれは6年計画です。もう1つが「障害福祉計画」で、これは数値目標が入った計画になります。最後の協議する際の留意点をしっかり共有した方がいいと思うのですが、評価についてこちらで検討するという事で計画

そのものが良かったか悪かったかとか、あるいは制度自体そのものが良いか悪いかという判断ではないということです。そこを共有していただいで進めたいと思います。何かご質問がありましたらお願いいたします。

(発言者なし)

■会長

よろしいですか。具体的に進める中でご質問があればしていただきたいと思いません。

3. 障害者計画の進行管理について

■会長

続きまして議事の3番、「障害者計画の進行管理について」事務局からご説明お願いいたします。

■事務局

事務局の方から説明をさせていただきます。進め方については先ほど説明させていただいた通りになります。障害者計画なのですが、うぐいす色の冊子をご覧くださいと78ページより目標に対しての事業内容という記載があると思います。こちらの事業については111個ありまして、それぞれの目標毎に事業を展開していくというところで設けております。事務局の方から目標毎、最初に目標1の訂正部分を皆様にご説明させていただきます。数が多いので、申し訳ないのですけども評価が△、×、－が記載されているもののご説明をさせていただきます。目標毎に事務局の説明が終わりましたら委員の方からご意見をいただくような流れとなっておりますので、よろしくお願ひいたします。

■会長

最初に訂正があるのですか。

■事務局

皆様にお配りしてあるものと、今回記載させていただいたものはカラーになっています。赤字のところは今回記載させていただいた内容で、背景が青いところは該当の部分になります。詳しく説明させていただきますと資料3をご覧くださいまして、背景が青色になっているところ、平成29年度の実行、評価、改善、備考

欄が青色になっています。それから30年度の計画が青色の背景になっておりますので、基本的には担当の方から回答をいただいて事務局の方でとりまとめました。赤字のものが今回記載させていただいた内容になっております。中には訂正が必要というところがありまして、前年度、前前年度のところで赤字がある部分に関しては、訂正、修正部分になります。とりまとめて皆様に送った後に訂正があったところもございますので、先に修正点のご案内をさせていただいた後に評価のところをどうしてこのような評価になったのかという理由を簡単に説明させていただきたいと思っております。

■会長

先に修正点のご説明があるということですか。

■事務局

目標1を進めさせていただきます。目標1なのですが、事業番号が資料3の小さくて見にくいのですが、表の左上、横に書いてある番号が事業番号になります。事業番号5番、事業名としましては手話講習会のところになります。ページが5ページになります。修正点なのですが、赤字で記載させていただいた通り、28年度の実行の①番、受講者数が125名だったところを今回人数に記載の誤りがありましたので、109名に変更させていただいております。修了者に関しましては、以前は79名ということで記載させていただいていたのですが、それが77名ということで訂正をさせていただいております。9ページの事業番号9番、サービス等利用計画を作成する事業所の拡大という事業名になっております。今回事務局の方で訂正出来ませんでしたので、ご案内をさせていただきます。30年度のPlanをご覧ください。6行目の最後の方なのですが、「サービス等利用計画を作成する事業所」というところの記載がございます。こちらを「計画相談支援事業所」と修正をお願いいたします。次の修正点ですが、10ページの事業番号10番、相談支援専門員の育成・確保という事業名になります。こちらの29年度の実行のところの①のところの2行目です。「あけぼの」、「プラザ」に加えて今年度から」という記載があるのですが、「ふらっと」という事業所が28年度から開設となっておりますので、「加えて昨年度から「ふらっと」に対し」という文言に変えていただきたいと思いますので、こちらの「今年度」というところを「昨年度」に訂正をお願いいたします。目標1番、最後の修正点を申し上げてもよろしいでしょうか。15ページの事業番号15番、事業名が権利擁護事業の充実というところになります。平成27年の備考欄ですが、「社会福祉協議会委託事業」と記載があるのですが、28年29年の備考欄と同様に「社会福祉協議会委託事業へ一部委託」というふうに記載をお願いいたし

ます。目標1の修正点につきましては以上になります。続きまして評価のところを説明させていただいてもよろしいでしょうか。

■会長

目標毎に修正点を言った後に評価・検討へ入るという進め方なのでしょうか。

■事務局

はい。

■会長

わかりました。お願いいたします。

■事務局

それでは目標1のCheck（評価）のところなのですが、△、×、－を付けさせていただいたところの説明をさせていただきます。まず9ページの事業番号9番、サービス等利用計画を作成する事業所の拡大【新規】のところになります。29年度の評価なのですが、△になっております。こちらの評価の理由としましては、特定計画相談支援（障害児相談支援）機関連絡会において、隔月で研修を行うなど相談支援員の知識の向上・スキルアップに努めることが出来た。また事業所のサービス等利用計画作成の参入の促進という点では、事業所数は増えてきているもののセルフプラン率、特に児童が依然と高い状況にあるため、今回評価を△とさせていただいております。一部達成出来ているところもあるのですが、依然セルフプラン率が高いという点がございましたので、評価を△とさせていただいております。続いて10ページの事業番号10番、相談支援専門員の育成・確保というところになります。こちらでも29年度の評価が△となっております。理由といたしましては、先ほど申し上げた事業番号9番と同じ理由でセルフプラン率、特に児童が依然と高い状況のため、相談支援専門員の育成・確保に至っていないという点から評価が△となっております。目標1の最後の説明になりますが、14ページの事業番号14番、事業名がピアカウンセリングの充実というところになります。こちらでも29年度の評価が△となっております。理由といたしまして、現在、ピアカウンセリングはみ～な、あけぼの、ふらっとで実施をしておりますが、あけぼの・ふらっとでは相談件数が0件、み～なについても相談件数が減少しております。ピアカウンセリング懇親会が34回、計653人参加と開催数を増やし、参加人数も増えている中で△の評価としているのは、広報などを出して周知を図っているのですが、相談件数に繋がっていないという点がございましたので、評価を△とさせていただいております。

目標1につきまして、事務局の説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

■会長

ありがとうございました。特に事務局からご説明ありました△の評価のところについて、皆様からご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

■委員

今は△のところだけですね。他のところの目標1のところの評価についての意見はこの後にまだ聞くということですのでよろしいでしょうか。○は付いているのですが、これはどうなのかという質問とかについてはまた別途時間を設けるという理解でよろしいでしょうか。

■会長

別途は無いので、ここでお願いいたします。

■委員

順番にいきます。まず7ページの管理番号7番。第三者評価のところ、ここに記載してあるD○が高齢者のサービスの施設になっています。これは障害者計画なので、第三者評価を受審した障害者施設についての数字を記載するべきではないかと思いました。受審されているのが高齢者サービス何件とか、認知症の生活介護とかという高齢者のサービスだと思うのですが、これは私の理解が違っていますか。

■会長

この実行のところの評価に介護保険サービス事業所の数が入っているということですね。

■委員

高齢者のサービスだと思うのです。ここに掲げる数字としては、障害者計画なので、障害者が給付事業をしている生活介護施設等の受審の件数を書くべきではないかと思いました。まずそれが1点です。それから9ページの管理番号9番、新規事業のサービス等利用計画のところの△と説明があった部分なのですけれども、△の理由としてセルフプラン率が依然として高いというようなご説明がありましたので、そうであるならば備考欄にそれを記載した方がわかりやすいのではないかと思いました。それと、これは事業内容が事業所の拡大というふうになっております。これは巻末の資料の最後に事業所の数がちゃんと出ておりますので、その数字をここに入

れたらいかがかなというふうに思いました。目標1は以上です。

■会長

委員のご意見について、事務局から最初にコメントをいただきたいと思います。お願いします。

■事務局

まず7ページの高齢のことではないので直接的には関係ないのではないかというご指摘になるのですが、確かにその通りだと思いますので、ここの記載の方法を考えたいと思うのですが、実際に通所作業所においても第三者評価は受けていますので、その旨を記載していった方がより現実的になるのではないかというふうに考えております。9ページのセルフプランの関係ということなのですが、確かに事業に関してはまだまだセルフプランが圧倒的に多いような状態でございます。確かに備考欄に書くことで現実を伝えられるのかなと思っておりますので、ここは少し工夫をしたいというふうに思っております。

■会長

2点ありましたよね。1つは備考にそれを書くべきではないかということと、事業所数も入れるべきではないかという2点ですよね。

■委員

最後に重点施策の進捗状況でわざわざ数字を載せておられるので、ここに載せるのでしたらこちらの表に載せたらいかがかなというふうに思ったという意見です。

■事務局

そうですね。見やすくなると思いますので、掲載いたします。

■会長

ありがとうございました。委員、お願いいたします。

■委員

要望なのですが、△のところをご説明いただいたのですが、委員から備考という話があったのですが、見た時に口頭のを記入するのではなくて、△の部分は大切なところであるわけですよね。備考か、枠としては下がずいぶん開いていますので、そのコメントを入れていただいた方がより丁寧ではないかと思いました。

△はそんなに多くはありませんので、要望です。

■会長

ありがとうございました。事務局から何かコメントありますか。

■事務局

確かに△のところはまだまだこれからという数字的にも足りていない。もしくは事業的にもまだそこまで至っていないというふうなことになってくると思いますので、そのようにさせていただきたいと思います。

■会長

ありがとうございます。

■委員

初歩的な質問で申し訳ないのですが、△の方の児童の方のセルフプラン率が高いということなのですけれども、セルフプラン率というのはどういうことをおっしゃっているのでしょうか。専門の相談員がいなくて、ご自分でプランを立てるということですか。

■会長

事務局からセルフプランについての説明をお願いいたします。

■事務局

その通りです。専門にサービスを受けるサービスにおけるプランを立てる方、それを自身で立てるという法的に2種類のサービスを受ける際の分け方があるのですが、おっしゃる通りご自身で計画を立てるものになっております。

■会長

ご自身というよりご家族ですね。

■事務局

そうですね。家族や保護者です。

■委員

そのまま家族のご希望の通りにサービスを受けられるというような仕組みという

ことですか。

■会長

それが支給決定にどう関連しているかということですか。セルフプランで立てられた通りにサービスの支給が受けられるのですかというご質問ですね。いかがでしょうか。

■事務局

プランをこちらの方に提出をしていただくのですけれども、その際に過剰なプランかどうかというところの見極めはさせていただいておりますので、受け付ける時に見させていただいてちょっとしたヒアリングを行うというような流れにはなっております。

■委員

ありがとうございます。もう1点なのですが、1番でしおりの発行ということで、これは視覚障害者のためのしおりの発行はされていないというようなお話を前に伺ったと思うのですが、それはよろしいのでしょうか。視覚障害者用のしおりを発行する計画というのはあるのでしょうか。

■会長

事務局、お願いいたします。視覚障害者用のしおりの発行というのは計画に記載されているかどうかということによろしいですか。

■事務局

計画においては、視覚障害者用のしおりに特価した記載はございません。

■会長

わかりました。計画に明示はしていないということによろしいですか。

■委員

そういうのはよろしいのでしょうか。障害者に向けたしおりというのは、健常者だけではなくて障害者ご自身のためにもあった方がいいのではないかと思うので、考えていただいた方がよろしいのではないかと思います。

■会長

最初の留意点にもありましたが、計画の良し悪しを評価するものではないということでしたので、次期の計画の中で具体的に記載していただけるようにこの場で検討を進めていくということによろしいでしょうか。

■委員

はい。

■会長

他の方はいかがでしょうか。

■委員

9ページのサービス等利用計画の関係でいうと、逆にどうなれば○になるのかということが個人的には興味がありまして、僕自身も相談支援をさせていただいているので、特にそこら辺が気になっています。先ほどセルフプラン率の問題があったと思うのですが、私自身はそれがまずいとは思わないです。児童の部分は保護者がやっているというふうな部分では若干問題があるかと思うのですが、障害当事者本人が自分のプランを自分で作っていくというのは大事だと思っていて、相談支援の本質というか、やはり自分でサービスプランを作れるようになっていくことが相談支援の目的なのかなというふうに僕自身は感じていますので、セルフプラン率が高いから悪いということは違うのではないかと思います。11ページの自立支援協議会の絡みのところでいうと、逆にそこが○であれば相談支援は△なのかというのは僕自身気になっていまして、なかなかその自立支援協議会に参画出来ないというのが僕自身は感じています。18人の委員しかいらっしやなくて、なかなか開けた場になっていないのではないかなというふうなところがありますので、そこを考えていただく方がいいのではないかなというふうなところは思っております。計画上どうなっているのかわからないのですが、そこが1つあります。あと16ページの虐待の絡みなのですが、おそらくなかなか難しいと思うのです。虐待を評価するというのはどうなのかというところは個人的には気になるところなのですが、○でいいのかということは少し気になっていまして、23件の通報があって、6件虐待ケースがあるということで、その辺の細かい部分は表現出来ないと思うのですが、例えばネグレクトが何件ですとか、そういうような細かいところがもう少しわかるといいのではないかなと思っております、この評価はもちろんこの場なので難しい部分はあると思うのですが、なかなか評価するというのは難しいなというのは感じます。以上です。

■会長

ありがとうございました。最初のセルフプラン率、先ほど低いから△というお話でしたけれど、低い高いというラインはどこなのかということですよね。それは何かラインは決まっているのでしょうか。

■事務局

セルフプラン率についてなのですが、現在の数でいきますと事業所作成率が成人の方が65%、児童の方が25%ですので、成人35%、児童75%がセルフプランということになっております。事業所作成率100%を目指すのかと伺いましたら、確かに岡本委員がおっしゃった通りそうではない部分もあるのかなというふうに思いますし、数字的に現実的でない部分もあるのかなとは思っていますが、我々の方でセルフプランを作成されている方に対して事業所計画を希望するかどうかというところのアンケートをとっております。その事業所計画を希望するに○が付いているけれどもセルフプランの方、この方々に計画を導入していくというところが1つのゴールなのではないかと思っております。具体的に何%がゴールかというところを数字でお答えするのは難しいのですが、そういったところを目指していきたいと思っております。

■会長

ありがとうございます。要するに事業所に本当は作ってもらいたいのだけれども、相談支援専門員がいなくて作ってもらえなくて、やむを得ずセルフプランになっている人を減らしたいということが目標であれば、先ほどのセルフプラン率が低いことをもって悪くはないのではないかとということには、答えているということによろしいでしょうね。ただ○△×を付ける基準をどうするかというのは、確かに少し感覚的な感じになっている気がしますので、次の計画の時には、もし何か指標のようなものが作れば、その方が評価を出しやすいのではないかとというふうに思いますので、次期計画の時にそこは少し検討していただくことによろしいでしょうか。次に自立支援協議会があまり開かれていないのではないかとというような、これはご意見ということで

■委員

そうですね。○△□の話で比較すると逆に自立支援協議会はどういうふうになっていけば、開催されているかではなくて開かれた場になっているかというところが少し気になるので、評価の値が○なのかというのが少しわからない。

■会長

ここは何を基準に○を付けたかを、まずお聞き出来ればいいですか。事務局の方で何か○の基準がありましたらお願いいたします。

■副会長

そもそもこの計画の1番上にある事業名の下の事業内容の部分と、その年度のP l a nというものがありますが、この年度のP l a nに対してこの○△×は付けていくのか。それとももっと大きい、先ほど言ったものですとサービス等利用計画を作成する事業所の拡大というものに対して○△×を付けるのか。それともその下の29年度のP l a nという計画に対して○△×を付けていくのか。どちらを基準とするのでしょうか。

■会長

では追加の質問ということですね。

■事務局

ここで11ページの自立支援協議会の活用ということですが、ここでの事業内容として掲げさせていただいているのが、「相談支援機能の向上のため、個別支援会議等で指摘された地域の課題を自立支援協議会」へ吸い上げるといったようなことが書かれていて、協議を進めているというような流れになっています。相談支援に特化してということになってしまっはいますけれども、この自立支援協議会の中の相談支援部会としては、今後の相談の在り方について検討を進めているところですが、国の方で欠けている地域相談支援であるとか、それから基幹相談支援センターの設置であるだとか、もろもろ相談事業がございませけれども、そのことに対して検討は進めていけているという評価から、○とさせていただいています。

■会長

今回は相談支援部会に対する評価というふうに書かれていますよね。そこで基幹相談支援センターとか、地域生活支援拠点について検討するということになっていたので、それが内容的に検討されているので○。そういう評価ということでしたよね。

■委員

なかなか難しいところだと思うのですが、そうであればもう少しその公表の仕方などを、もう少しみんなが見られるような形にしていただけると、評価がで

きているのだなというようなことになるかなと思いますので、そういうふうな対応をお願いしたいなと思います。意見になってしまっていますが。

■会長

それは要するに協議会の内容を。

■委員

はい、情報開示をもう少し広げて欲しいなというふうに思っています。

■会長

まずでは委員のおっしゃっていたのですが、何か市の方でそういう会議の内容が見られるようにしているといったことはありますか。

■委員

すみません会長。私、自立支援協議会の会長という立場で、ここに出させていたいただいておりますが、会議録や資料に関してはタイミング的に遅いのは事実ですが、情報公開はしております。会議も全体会に関しては傍聴可能です。この計画の推進協議会と開催のやり方としては同等にしております。

■会長

情報は開示されているということですね。それが確認出来ればよろしいですか。

■委員

大丈夫です。

■会長

後は副会長。

■副会長

先ほどの質問は、単純に29年度のPlan（計画）に対しての評価なのかどうかを知りたいです。だとすると明らかに自立支援協議会の開催という計画に対しての○△×とあれば、開催していれば○ということになるのではないですか。その内容がどこまで充実しているのかということで、上の事業内容のもとをすべて出来たら○っていうのであって、全然違うお話になってしまうので。

■会長

そこは先ほど事務局の方で、相談支援部会においてテーマになっている基幹型相談支援センターと、地域生活支援センターについての協議が進んでいるから○という評価というご説明があったので、評価軸が記載されていないからわかりにくいということでしょうか。

■副会長

すべてのところで年度ごとの計画が立てられているので、その計画がクリアされていれば○という評価を付けていくものなのかどうかということをも単純に知りたい。

■会長

相談に限らず、計画に記載されている事項が評価の対象になっているかというご質問ですか。

■副会長

そうですね。計画自体が評価の対象なのか。別に難しい話ではないと思うのですが、P l a nという部分の評価なのかどうかということです。

■会長

では事務局いかがでしょうか。

■事務局

そうですね。ここにも書かれていますけれども、P l a nとしては協議会の開催とそれから組織となります部会についても開催をしているところで、その実行に関しては記載してある通りなのですが、計画通りに回数もこなせておりますし、進行についても順調に来ているというふうに見込んでおりますので、評価としてはあれでよろしいのではないかと考えているところでございます。

■会長

私の感想なのですが、この計画のところにもう少し詳しく記載する必要があるのかなというふうに思いました。例えば先ほどの相談のセルフプランの達成率も、今相談支援事業所に計画を作ってもらいたいかどうかというアンケートをとっているというお話でしたよね。それで希望しているのだけれども、事業所が見つからなくてやむなくセルフプランになっている人の率を下げるというふうに書いてあれば、これは誰にとっても納得がいくといたしますか。ただしそこで何%を何%にす

るかというところまでも本当は詰めていかないと後で評価をしたときに、では根拠は何ですかというご意見につながってしまうので、そこも詰めていく必要があるかと思うのですけれども。今回のご意見の的になっている協議会のことも、この協議会の相談支援部会で基幹型相談支援センターと、地域生活支援センターについて協議をするという計画であったとすれば、それが協議されていれば○という評価になるということでもわかりやすくなりますよね。ですから評価事項をもう少しわかりやすく、大変かもしれないのですけれども、書いていくことによって、なぜ評価したかという理由が明らかになるのかなと思いましたがいかがでしょうか。

■委員

補足になると思いますが、基本的にPDCAサイクルに沿って回されていると思いますので、今混乱が起きているのは、たとえば29年度の計画は28年度のAct（改善）のところが反映された計画になっていくというように、ずっとくるくると円のように回っていくはずのものなのですね。ですから29年度のActの最後、改善のところが検討していくがその次の下を書いてある30年度のPlanに反映されていれば、PDCAサイクルは回るのでどんどん改善されていくのですけれども、もしかして28年度も29年度もPlanがまた前のものに戻ってしまっていると改善につながっていかないので、同じ課題がずっと積み重なっていくということになると思うのです。ですから構成の考え方として副会長の疑問ももっともなことだと思いますけれども、もう少しわかるように記載するとすれば、Checkのところ、評価のところが大事なのですけれども、繰り返しになってしまっても、Doでこれぐらいのことができたので○としているとか何かあれば、この○は左の○と一緒にかなとか少しわかりにくくなってしまふところが改善されるかなと思います。感想です。

■会長

そうしますと要するにこの場ではAct（改善）を話し合っ、それがそのまま30年度のPlanのところになる。そうやってPDCAサイクルを回るという理解でいいですね。

■委員

本来PDCAはそう回りますが、ただ今話し合うのはActからPlanのところを話し合うというスタンスではなくて、では本当にそのCheckが出来ていたかというところを委員から意見を聞きたいという、そういう場かなと今理解していますので、ではこの○でいいですかというような意見を今聞かれているのですよ

ね。ですので、ではA c tからP l a nにっていないのではないかというところの議論では、今日はないのだと思います。単純にこの〇×のところの話でいいのかなと私は思いますが、市の方はいかがでしょうか。

■会長

では事務局の方をお願いします。

■事務局

そうですね。その通りだと思います。事業としてこちらの事務局の方で評価をさせていただいたところもありますが、その評価に対してどれだけ実行が出来ているか。またその△ではそれほど進んでいないというような評価になってくるかと思えますので、その辺の29年度としての評価を見ていただければというふうに思っております。

■会長

はい。それでは委員。

■委員

私も感想ではあるのですが、今委員がおっしゃられた通り、このA c tというか〇と言ったとしても下のこの書いていただいている今年のところが、今までよりも明らかに実数が増えているというか、内容が変化してきているので、回っている。逆に29年度から30年度に向けて、やはり事務局の思いがここにきちんと書かれているのかなというふうに印象として受け止めましたので、そういった考え方で、計画をどういうふうに振り返って30年度にといったところを見ていくことが大切なのかなと思いました。事務局の方が30年度しっかりと書かれているので、それも見ていくとわかりやすいかなと思います。以上です。

■会長

では、今の発言は感想ということでよろしいですね。目標1について他にご意見ありますでしょうか。では委員。

■委員

3ページの番号3番のところなのですが、コミュニケーション手段の確保ということで、パソコン講習会というのが2番にあります。A c tのところ講習会の開催が0になっているようですが、開催0でここが〇になっているのが少し

どういうことかなと思いましたが一点です。それから△になっていた14番です。ピアカウンセリングの充実のところです。先ほどの事務局からのご説明では、み～なでの相談件数が減っているというお話だったのですけれども、A c tのところの文章は増加しているになっているので、ここをご確認いただければと思います。それからごめんなさい、戻って9番なのですけれども、これは、「てにをは」だけです。30年度のP l a nのところの5行目のところです。「府中市特定相談支援機関連絡会の実施する」ではなくて「を実施する」、「の」ではなくて「を」なのではないかと思ひます。同じ文章が27年のP l a nのところにもありますので、「てにをは」だけですが、訂正をお願いします。以上です。

■会長

はい、ありがとうございます。まずは3ページのコミュニケーション手段の確保、開催0なのに○にした理由ですね。では事務局お願いいたします。

■事務局

確かにご指摘の通りで0件になっていて評価は○というところは、食い違う点があるのかなと思ひております。実際にパソコン講習会なのですけれども、年々人数が減ってきている事業でもありまして、確かに参加者がいないとなると○という評価がそこには結びつかないというふうに思ひますので、少しここの評価の検討はさせていただきますと思ひます。

■会長

はい。評価を何にするかというのはここで議論するのですかね。それとも事務局の方で作業されるのでしょうか。

■事務局

ここは事務局の方でさせていただきます。

■会長

ではこの○の評価は事務局で再検討するということでよろしいでしょうか。

■事務局

そうです。

■会長

次のピアカウンセリングのところは、相談件数が増加しているのに、説明では減少しているといった食い違いのご説明をお願いします。

■事務局

すみません、ここはおそらく左側の平成28年度のA c t（改善）のところを単純に右の表にあてはめてしまっているのです、これは増加ということではなくて、ここは減少ということになります。1行目の「み～なの相談件数は大きく増加している」というのは、「減少している」というふうに訂正をさせていただきたいと思います。

■会長

それは文言の修正ということによろしいですか。では、そこは増加ではなくて減少に修正をお願いします。

■委員

A c tのところの①の修正ですよね。「み～なでの相談件数は減少している」になると、「特に小中学校・関係機関向けの出前講座での件数は延びており」と文章の繋がりがおかしいです。ですから、ここの全体を一度検討していただいた方がいいかなと思います。

■会長

事務局、いかがでしょうか。

■事務局

それも含めまして、表記の仕方を検討させていただいて、修正すべきところは修正していくという流れで持っていきます。

■会長

はい。次に手を挙げていらっしゃる委員をお願いします。

■委員

評価のところですが、全体を見ると27年～29年、△のところはずっと△ですよ。改善点のところは全部同じ文章が書いてあるわけです。ということは、全く改善されていない。ですから先ほどどなたかが最初に言いましたように、なぜこれが改善されていないのかという理由を説明しないと、いつも同じことが書いてありま

せんかということになりますよね。

■会長

はい。質問ということでよろしいでしょうか。

■委員

はい。

■会長

事務局お願いします。

■事務局

確かに、例えば9ページになりますけれども、サービス等利用計画を作成する事業所の拡大ということでこれについても27年、28年、29年と全て△という状況でございます。今、事業所に対してのアピールというものをしているところもありますけれども、なかなか数字的にいい評価にはなっていない。まだまだ保留と個人的に計画を立てられる方が多いといった状態なのですけれども、アクションを起こしているのだけれどもそこに事業所がついてこれられないのか、それからまだまだ個人としてのプランの方がより生活にあったプランを立てられるといったような意見もあったりする中で、どちらがいいのかということを経務局の方でも悩むところはあるのですけれども、そういったところでは事業所に粘り強く協力を得られるように進めていかなければいけないところはありますけれども、そういったところでもなかなか評価に出てこないようなサービス等もありますので、その辺に関しては継続的に計画を立ててそれに近づけるようにしていければいいなと思っています。

■会長

事業所の増加となりますと、参入していききたいという事業所の意欲を喚起するような市の役割になると思うのでなかなか具体的な、市が直接何か事業所に指定を受けてくださいと命令できるわけではないので、そこは難しいというお話だと思っていますけれども、一例ですねその話は。

■委員

Plan（計画）を達成するためには、改善案というのをもって違うことを考えなければいけないということも考えられますよね。同じことを毎年やっても駄目ならば。

■会長

はい。そこが一番大事なところだと思います。先ほどのPDCAサイクルのお話ありましたけれども、何をするかということを考えていかないと改善に結びつかないということですね。ここは市の方で検討していくということでしたので、次の計画の時にはより具体的な計画を考えていただくということで今日はよろしいですか。はい。もう1人手が挙がっていましたか。では、委員。

■委員

私、学校長なので、学校に関することは23ページの話ですが。

■会長

23ページまでは行っていません。次の時にお願いします。では、副会長。

■副会長

9ページの事業所数は増えてきているとずっと記載されているのですが、一番後ろの重点施策の進捗状況の相談支援機能の充実のところの何ヶ所という部分が、指定特定相談支援事業所の開所数であったら、1年間で17ヶ所増えてきているという意味になるのか、それとも今現在17ヶ所で28年度も29年度も17ヶ所であれば、増加していないことになると思うのですね。ですからその文章はおかしいのではないかと。それとも1年間でこれだけ増えているのであれば、すごく増加しているのかなとは思いますが。

■会長

事業所数は増加してあるというのほどこに書いてありましたか。

■副会長

9ページの計画のところ27年度に「事業所数は増えてきており」という部分がありまして、28年度も29年度も同じ計画なのです。さらに30年度に関しても「事業所数は増えてきており」と書いてあるのですけれど、そもそもの数が増えていないのであればそういう評価は出来ないと思っています。その関係でそこは直した方がいいのかなということと、次のページなのですが、先ほどここの評価でもセルフプランが多かったのだという話だったのですが、計画の段階での「相談支援専門員育成研修の実施」という計画の①があるのですが、この研修自体は実施出来たのかどうかということを知りたいです。もし実施出来ているのだったら○でもいいのかなと思うのですが、以上です。

■会長

はい。2点、事務局から説明をお願いします。まずは事業所数が増えているという表現のことですね。

■事務局

事業所数は増えていません。ちなみに27年度が16ヶ所、28年度、29年度がそれぞれ17ヶ所ということですので、増えているとしたら27年度から28年度が1ヶ所増えたという実績になります。ですから、ここでいう「増加してきており」という言葉は29年度には当てはまらないと思っております。

■会長

はい。ではここは、文言は検討していただくということで。もう1点、研修の実施のところですね。

■事務局

こちら相談支援専門員の養成の研修についてですが、東京都で実施している研修の情報提供ということで、1年に2回あるものの情報提供を行うというところがございます。

■会長

そうしますとこの計画の表現は研修の実施ではなく、計画の周知とかそういうふうにした方が実態と合っているということでしょうか。都がやっている研修の情報を周知したということですね。

■事務局

はい。

■会長

では、ここも書き方については検討いただけるということによろしいですか。

■副会長

はい。

■会長

あとはいかがですか。委員。

■委員

お話いろいろ伺ってきましたが、市民代表として非常に素朴な質問をしてみたいと思います。確かにこの書類上では市なり私たちの関わった審議会なりが計画を決定して、それがどういうふうになん%達成されたか、これは○か×かということで書式は整っていると思うのですが、ここで評価という言葉について考える時に、例えば市役所の側で計画を立ててそれでこれでいいですかと私たちに審議を依頼して、ここで評価する人間もそれと重なっているということでもいいのでしょうかという疑問が非常にあります。例えば、非常に漏れている部分がこういう計画を立ててこの程度に進行させた、はい成功とこの中で完結しているような気がします。例えば、受益者とか当事者の方たち家族の方たち、この書類の影にはものすごいドラマがぎっしり詰まっている案件だと思うので、市民感覚としてこれでトントンと行っていいのだろうかという感覚を非常に持ったのですが、どうでしょうか。

■会長

具体的に利用者全員に評価を聞いた方がいいというご意見でしょうか。

■委員

全員といわないまでもこのシステムで漏れるところがないのだろうか、ここの顔が見えている中でこの評価作業が完結していいのだろうかという。例えば、この会のメンバーに当事者を増やすとか具体的にはそれでもいいです。ここで何ヶ所どうのこうのという中にもこの余白に書くべきことがあるでしょというお話もあったと思うのですが、膨大にあると思います。△がいつまで経っても△ということの背景にも、ものすごいドラマが詰まっているような気がするのですが、それでもものすごく当事者の人たち家族の人たちが汗流し涙流して苦しんでいる、私もその一人なのですが、それがとても抜け落ちている気がお話を聞いていてします。皆さん最大限に職責を超えてまで努力をなさっていることはよくわかるのですが、どうでしょうかこういう質問。

■会長

そうすると協議会の在り方に対するご意見ということでしょうか。

■委員

そうかもしれません。そこまでよくわかっていない私がいるのですが、初めて入ってきて。

■会長

はい。そうですね。協議会の在り方をどうするのかというご意見を出していただいたことについてはまた考えなくてはいけないと思うのですが、今議題にしているのは進行管理のことですので、今の議題からは少し外れているのではないかと私は思いました。

■委員

私も思いますけれども。

■会長

そうですか。では、協議会の在り方について課題があるというご意見を今お聞きするということで留めさせていただきよろしいでしょうか。

■委員

とりあえず結構です。

■会長

わかりました。でも貴重なご意見ありがとうございました。確かにそういうことをちゃんと想像しながら協議会に臨まないといけませんよね。はい。目標1番についてですけれどもよろしいですか。他にありますか。

(発言者なし)

■会長

次、目標2番に移りたいと思います。では事務局からご説明お願いいたします。

■事務局

では、目標の2番について説明させていただきます。お配りしている資料3の17ページから36ページまでとなっております。目標2につきましては、修正及び△×一等の理由につきましてはの事務局からの説明はございませんので、そのまま委員のご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

■会長

わかりました。では、先ほどお話のあった委員、36ページでしたか。

■委員

23ページです。

■会長

では、よろしく申し上げます。

■委員

これは特別支援教育の充実ということで、今回29年度を見させていただくと〇についてなのですが、教えていただきたいのですけれども27年度の開催・参加者人数が6回で193人、28年度が122人、昨年度が103人ということで毎年減少しているわけですよ。それで〇ということで、充実といったところで人数的には27年度と比べると半減しているわけですよ。それで何で〇なのかというところが、数字だけですので中身はよく見えないのでその辺りをご説明いただければと思います。それから、29年度から30年度に向けて計画ががらりと変わっているのです。この中身を見ると「センター校コーディネーターとの更なる連携、学校現場の具体的な指導・支援」ということで書いてあって、それに繋がる内容がスクールカウンセラーとか書いてあるところなのだろうと思うのですが、このがらりと変わったところの背景がこれだと全くわからないので、こういったところがスクールカウンセラーとの連絡会がやはり必要性があるというようなところが少しわかるような説明であると、Act(改善)のところがわかるようなことであるとこの表がわかりやすいのかなと思いました。その2点についてお願いします。

■会長

はい。ありがとうございます。では、事務局から説明がありましたらお願いします。

■事務局

この事業につきましては教育部で行なっている事業ということもありまして、この場では説明しにくいところではありますが、まず回数は同じだけれども、参加した人数が減っているということについてと、それから29年度から30年度にかけての計画が大きく変わっているという点については、こちらの方で確認させていただいて次回、回答させていただきます。

■会長

教育委員会の管轄ということですので次回、回答でよろしいでしょうか。

■委員

はい。

■会長

では、他に、委員お願いします。

■委員

委員と同じようなお話なのですが、25番のところも計画が30年度大きく変わっているところなので、ここも合わせて次回ご説明いただければというところと単に次回教えていただきたいのですが、25番の合理的配慮支援員と学校経営支援員と2つ名前があるので、この違いも併せて教えていただけると、もし委員ご存知でしたら教えてください。

■委員

私は学校現場なので、これは府中市の取り決めですよね。私はわかりません。

■委員

すみません。次回教えてください。

■会長

合理的配慮支援員と学校経営支援員とはどういう人かということ、もしおわかりになりましたら、もしわからなければ次回。では、先ほどの委員のご質問と委員のご質問については次回、回答でよろしいですか。では、他にご意見ございましたら、委員、お願いします。

■委員

この教育のところで思ったのですが、例えば、教育関係の役所の方も次回、同席出来るのであれば、その方から説明いただく形もありなのではないかと思いました。別件で、目標2でいうと17ページのこれもまた難しい質問になってしまうのですが、この障害者週間に合わせて障害についての市民理解を深めるというところなのですが、○と判断出来るのか、このイベント自体に対してどのくらい障害者の理解が進むのかというのが見えてこない。その辺の理由、例えばアンケートで市民理解が深まったというようなことがあるのであれば、それは評価に値すると思うのですが、その辺がわからないといいますかイベントだけだとうものだろうかということを知りたいというところが1つと、30ページのジョブコー

チの活用件数が2件というような状況で○という評価なのですけれども、何か進まない理由があるのかなというのが気になります。31ページ、最近話題になっているところかと思うのですけれども、障害者の雇用の水増し問題が国で指摘されていて、府中市はとりあえず問題なかったようなのですけれども。

■委員

新聞に載っていましたよ。

■委員

ごめんなさい、出ているのですね。勉強不足でしたけど、その部分があるのであれば、○ではなく×なのではないかという気がします。以上です。

■会長

ありがとうございました。まず17ページの参加促進のところですね。目標には「ふれあう場を設けます」というのが計画になっているので、設けたか設けなかったかということが評価になるのかもしれないですけど、理解が深まったかどうかを評価しているのかどうなのかというご質問でよろしいでしょうか。

■委員

はい。

■会長

では、事務局お願いします。

■事務局

イベントの実施ということもございますが、啓発事業として毎年障害者週間に合わせて行なっているものでございます。事業を実施することで周知を図るといった意味合いもございますけれども、ただこのD○のところ見ていただきますと参加人数が減っているというところがあって、矛盾点もあるのかなと思ったりもします。ただし、事業の実施その中で啓発活動が出来たという点に関しては評価出来るのかなと思っております。

■会長

はい。続いてジョブコーチですね。活用件数2件という利用が進まない理由は何でしょうかというご質問でした。委員。

■委員

私は就労支援センターに所属しています。ジョブコーチ支援、東京ジョブコーチなど2か所ほどあるのですが、混み合っていますということで本当に必要な方、本人とそれから企業側のご理解をいただいているということになりますので、その辺の調整の必要があってこの状況ということをご理解いただけるとありがたいと思います。また現段階では、予約がかなり先になってしまうという現状もあります。以上です。

■会長

なるほど。要するに需要に供給が追いついていないということなのでしょうか。

■委員

そうなのです。

■会長

はい。もう1つ、31ページの○は×ではないかというご意見でしたけれど。

■事務局

水増しにつきましては昨今、新聞でも公表されておりますけれども、ご心配おかけしております大変申し訳ございません。障害者採用の実施についてはこれもそうですが、採用試験を実施はしているところでございます。ただ、内容的に以前からよく言われておりました「精神を対象にした方が良いのではないか」とか、「知的も対象にした方が良いのではないか」とか、いろいろ検討すべきところはあるとは思いますが、実施という点については毎年行なっています。申し込みいただいているのですが、結果的に採用には至らなかったという点もございます。実施は今後も続けていく予定はございますので、評価としては○ということで良いのではないかと考えております。

■会長

雇用率を評価する目標ではないということですね。それに改善に向けての方策というのは、市では検討していただいているという理解でよろしいでしょうか。委員。

■委員

今の説明ですと試験を行ったので○という感覚になるのですが、そういうことですか、そうではないと思いますけれどもそういうことなのでしょうか。この計画は試験をやったこと自体で、要するに実施したので○。雇用するかしないかで

はなく、試験をやるか、やらないかというような評価ですか。

■会長

では事務局、お願いします。

■事務局

非常に難しい答えになってくると思うのですが、確かに試験を実施した結果で採用するか、しないかということになります。詳しく述べられないところもありますが、採用に関してその辺の概要を次回説明出来るようにしたいと思いますけれども、実施しているので評価出来ると思っています。結果がついて来ないものは他にも出てくると思うので、この評価の仕方については事務局の方でも検討していきたいと思っています。

■委員

すみません、現在の市の障害者の採用は何人ぐらいいらっしゃるのですか。

■事務局

はっきりとした人数は把握しておりません。

■委員

そうですね。では次回お願いします。

■事務局

わかりました。

■会長

委員のご質問ですが、次期計画に向けてはこの目標を少し検討した方がいいのかもしれないですね。ここは実施したかどうかになってしまっているんで、確かに評価もそれに応じて行った場合は評価せざるを得ないので、そういった法定雇用率を割っているという現状があるわけですからそれを踏まえた目標設定を次期計画で何か検討するというところでよろしいでしょうか。

■委員

はい。ぜひそのようにお願いします。

■会長

市の採用数については次回、ご回答ということで。では他のご意見を。委員。

■委員

はい。29番、就労支援事業についてですが、これも今のことと通じるものがあるかと思います。実際には自立支援協議会の方で就労支援部会というものがあって就労支援の人達が足りなく、就労支援が上手くいっていないということでその部会が出来ていると思うので、これを○とするのは実施しているかどうかで○としていると思いますが、充実となってくると○ではないかなと思います。

■会長

はい。評価の変更のご意見ということですね。事務局から何かありましたらお願いします。

■事務局

ここの評価についても実績に伴っているかとか、件数がどうかとか、いろいろございまして、実態に合ったような評価が出来るように検討していきたいと思えます。

■会長

評価については再検討ということでよろしいでしょうか。

(発言者なし)

■会長

評価基準をきちんと定めておくということが評価するときには何に照らしてというときには有効なのではないかと感じました。では2番の目標の中で他にご意見ありますか。委員。

■委員

21番の内容が「発達障害を含む障害がある児童・生徒のライフステージに応じた一人一人の特別な教育的ニーズを把握し、能力や可能性を最大限に伸ばすために各種相談に応じるとともに、教育的支援を行います」ということが書いてありますが、ここの数字は年々伸びているのですよね。転学相談は少し減っていますが、入級相談や就学相談件数3.6%増と54%でかなり増えていて、こういうことに対して実際に相談を受けたということだけではなく、そこに何かの対応をしてくだ

さっていると思うのですが、人を配置したとかこのようなお子さんに対して、このように増えたことに対して一人一人のお子さんに学校現場では対応をされたと思います。そのために人的な配置をしていただいたと思うのですが、そのような相談に対してこういうふうに対応しましたという結果がこの評価表には出ていないので、先ほどもこの評価の仕方で良いのかというような、どうやって評価すれば良いのかわからないということがあります。こういう相談があつてこのような対応をしましたという結果まで、ここに入れていただけると良いのかなという気がしています。そのような計画と評価の報告であつて欲しいなと思います。ここの目標にきちんと教育的支援を行うということが書いてあるので、どういう教育的支援を具体的にどのように行ったのかを入れていただきたいと思います。

■会長

はい。ありがとうございます。確かにこの事業内容のところでは各種相談に応じるとあり、これは応じた件数が書かれています。教育的支援を行うことについては実績が書かれていないということですね。事務局から何かコメントありましたらお願いします。

■事務局

実行の部分で確かに件数的なところと文章で説明をさせていただいているところで、だいぶ受け取る側の意味合いも変わってくると思いますので、ご指摘いただいた通りだと思います。どういった対応が出来たのかということも含めて記載が出来たらと思いますので、ここの部分については改めて検討していきたいと思います。

■会長

教育関係のご質問については次回回答ということでしたけれど、教育部局の方に来ていただいて直接説明していただくことになりませんか。

■事務局

それも可能かと思いますのでこちらから依頼をかけて出席していただけるようにいたします。

■会長

そのときに教育的支援を具体的にどういうことをされたかということも併せてお答えいただくと、いいのではないかと思いますのでよろしくをお願いします。では目標2のところでご質問ありましたらお願いします。

(発言者なし)

■会長

では目標3に進みたいと思います。事務局、お願いいたします。

■事務局

はい。では会長、目標3の方を説明させていただきます。ページは37ページから80ページになります。目標3につきまして訂正部分はありません。評価の方に移らせていただきます。46ページの事業番号48番をご覧ください。事業名が「未利用所有地等の有効活用」のところになります。今回評価としましては－を引かせていただいています。理由としましては東京都の方から28年度同様に募集がなかったため未実施となっております。ただこちらとしましても東京都から募集があった際は、各法人に向けてご意見を伺い活用を検討して参りたいと思っておりますのでご了承ください。続きまして63ページ、事業番号68番、「重度身体障害者（障害児）住宅設備改善事業」です。こちらですが、昨年同様事業番号50番、ページで申し上げますと48ページの方に記載をさせていただいております。該当部分としましては29年度の実行のところに記載がございます「住宅設備改善事業」の部分です。6行目から記載がある「小規模改修、中規模改修。屋内移動設備」ということで、68番の事業内容を事業番号50番の方で記載させていただいており、横棒の評価となっておりますので、よろしくお願いたします。続きまして65ページの事業番号70番、「訪問支援」になります。こちらの29年度の評価が△となっております。こちらに関しては国や都に要請していないため評価を△とさせていただいております。続きまして70ページ、事業番号75番、「自立支援医療、医療費助成の充実」になります。29年度の評価としては×になっております。こちらは29年度東京都市障害担当課長会を通して要請していないことが理由としてあるのですが、こちらは東京都心身障害者医療費助成制度の対象者拡大の流れがあるため、要請は見送ったという経緯がございます。続きまして77ページ、事業番号86番、事業名「年金や手当などの充実」というところです。29年度の実行の②ですが、東京都市障害担当課長会で手当の支給について要望をしていないという理由から、評価を△としております。次が最後の項目となります。79ページ、事業番号88番「福祉避難所の確保と在り方の検討」についてです。29年度の評価に関しましては△となっております。各課と協議を行ったが成果が出なかったということが理由となっております。説明は以上です。よろしくお願いたします。

■会長

はい。ありがとうございました。では目標3についてご意見ありましたらお願いします。時間が迫ってきていますので、なるべく効率的なご発言をお願いします。

■委員

提案なのですが、これは結構ボリュームがあつたぶん皆さんからたくさん意見が出ると思いますが、残り時間7分でとても全部解消出来るとは思えません。できれば次回持ち越しした方が良くと思いますがいかがでしょうか。それともギリギリまで頑張りますか。

■会長

ここの部分はやらないで目標3は次回ということですか。

■委員

これを始めてもたぶん中途半端で終わってしまうと、また元に戻って記憶を呼び覚ましてということになってしまうと思います。たぶん次の会議が2月だと思いますので、ここの目標3のところ途中で切れてしまい皆さんできちんとした議論が出来るかどうかというところに疑問に思います。もう残り時間6分になってしまいました。すみません。6分でここの項目が終わるといふうに思えませんがいかがでしょうか。

■会長

では今日はもう終わりにしたらどうかということですが、いかがですか。スケジュールの確認があるようですので。目標3については次回の協議会で検討ということよろしいでしょうか。

(発言者なし)

■会長

はい。有益なご意見ありがとうございました。議題の4番についても次回持ち越しということになりますので次回また盛り沢山になってしまいますが、事前に資料をよく読んでいただいてご意見を整理して臨んでいただきたいと思います。では飛ばして議事の5番のその他です。まずは皆さんからその他で何かありますでしょうか。

(発言者なし)

■会長

特にない様でしたら事務局からスケジュールについて、報告があるようなのでお願いします。

■事務協

前回会長からいただいたご質問に回答させていただきます。前回地域移行の関係で恐らく支給決定を調べれば数値が出てくるのではないかというようなご意見をいただきましてその回答ということになりますが、現在精神につきましては病院の方で調査をかけているところで、回答なしといったところでございます。身体、知的につきましてはここ数年実績がない状況でございます。過去については地方の入所施設からグループホームへ移行された方が多いといった状況です。

■会長

はい。前回の議事録（案）の28ページのところに持ち越した質問内容が書かれています。ここに出されている質問というのは委員からなのですが、150人いらっしゃる入所者の方の中で実際どれぐらいの人数がサービス等利用計画の対象になっているのかというご質問です。もしお答えいただけるようでしたら実施、次回持ち越しであれば。

■事務局

こちらの部分について、入所者の計画相談の導入数率は7割でございます。

■会長

はい。105の方が計画相談を作成されているということですね。これについては前回のご質問は回答されたということですね。ではスケジュールです。お願いします。

■事務局

今回資料5も用意したのですが、こちらの話もまた次回ということにさせていただきます。次回の協議会についての大きな目安の時期をお伝えしたいと思えます。次回は今年度最後の協議会になりますが、詳細日程は決まっておりません。目安としましては2月の下旬、もしくは3月の下旬になります。また会長、副会長と日程を調整させていただいてから、委員の皆様へ通知をさせていただきます。委員の皆様の方でこの日は都合が悪いとかスケジュールについて把握されている部分

ございましたら帰りがけでも構いませんので、事務局の方にお声かけいただきますようお願いいたします。以上です。

■会長

ありがとうございました。時間がありませんが、委員からご提案いただいた推進協議会そのものの在り方を検討するようなご予定というのはどこかであるのでしょうか。これは協議会の中で話し合うことなのか、そうではないのか、そこだけでもわかれば。

■事務局

どういった場面で活用出来るのかというところもありますますがそこもちょっと次回で。

■委員

委員の意見もあつたのですが今回の会議でも話が紛糾している部分があつて、この協議会で計画は立っていますが実行の部分とか改善の部分、次の計画の部分をごここで話し合えていないので、余計この場では話し合えていないのではないかと思います。評価として○とか△とかをつけていますが、評価があつて改善して次の計画の部分までこの会議で考えるとなると相当大きな作業になってしまうのですけれど、一体それがこの会で担う役割として、府中市として考えていけるのかどうかも含めて今回ではなくて良いので、次回考えていってほしいなと思います。

■会長

はい。次回かどうかというのはありますが、我々の任期中のどこかでということでしょうかね。ただ協議会は市の要綱か条例に基づいて設置されていると思うので、そこの中の所掌事項に入るのかどうかということをご確認いただいて、もしこの中でそういったことを検討できるのであればあるいはここで決められなくても協議会として、こういう在り方が望ましいのではないかというような意見交換が出来る場があれば、そういった機会をこの任期中に持っていく。まずは計画の評価をしなければいけないので、そちらを議題として優先させていただいて最後の方で時間を取っていただければ、そういう意見交換の場を設けていただくということでもよろしいでしょうか。

(発言者なし)

■会長

はい。これで第2回計画推進協議会を終了いたします。進行が悪くて、申し訳ありませんでした。次回もよろしくお願いいたします。